二〇一九年一一月八日（参加者一二名）

渡月橋水かげろふす小春かな　明日香

苔庭の起伏へ燦と紅葉影　明日香

苔庭へ日の斑踊らす風紅葉　明日香

去来墓這ひつくばつて詣でけり　明日香

嵯峨野径屋敷紅葉が席巻す　明日香

落柿舎のつくばひ埋む柿落葉　明日香

鵙高音去来の墓にぬかづけば　菜々

小倉山かたかげりして薄紅葉　菜々

落柿舎に指折りをれば鵙高音　菜々

野々宮へ小春溢るる竹の径　菜々

祇王寺の紅葉に透きて空蒼し　うつぎ

嵐峡の大堰小堰水の秋　うつぎ

藤の実の瓔珞と垂る寄せ仏　うつぎ

縁に座し小春の日差し目に眩し　素秀

あだし野の露に濡れたる無縁仏　素秀

枯山に動くともなき雲の影　もとこ

落柿舎の茅葺屋根に柿の天　もとこ

薄紅葉祇王寺の庭一穢なし　よう子

尼寺の庭の一隅石蕗黄なり　よう子

からうじて去来と読めし碑身にぞ入む　よし子

踏みまどふ嵯峨野の径の落葉かな　よし子

落柿舎の蓑笠にさす冬日かな　和子

天高く雲ひとつ揚げ小倉山　和子

竹春の小径を縫ひて車夫駈くる　たか子

吟行句会みのる選

二〇一九年一一月八日（参加者一二名）